

## 自己評価及び外部評価結果

令和4年度

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473800611	事業の開始年月日	平成16年3月1日
		指定年月日	平成16年3月1日
法人名	特定非営利活動法人 都筑の丘		
事業所名	グループホーム 都筑の丘		
所在地	(〒224-0057)		
	神奈川県横浜市都筑区川和町1705		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和5年2月1日	評価結果 市町村受理日	令和5年6月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

3年にわたるコロナ禍で、ご入居者の身体機能の低下、認知症が進行しないことを1番に考え努力しています。家族と出かけられない、旅行に行けない、音楽会や行事ができない等のストレスが認知症の進行にならないよう、季節の移ろいを視覚、嗅覚で感じられるように、もともと畑だったところを整地し、植木屋さんとボランティアの方々の協力により昨年5月にイングリッシュガーデンが完成しました。適度な勾配をつけた遊歩道、散歩の途中で休憩ができるように白い八角形のガゼボ（西洋風あずまや）を作り、日当たりのよい中心にはベンチとテーブルをおき「らんらん広場」にして体操をしたり、お茶を飲んだりしています。四季の花々がその時期に咲くように花や樹木を植え花の名前がわかるようにネームプレートもつけました。所々に兎、羊、犬、熊など可愛いオーナメントも置きました。面会はガーデンで行いご家族からも喜ばれています。畑で収穫した栗やさつまいもで作ったおやつ、露の皮を皆さんで剥いて煮たキャラ落、洗ってひとつつつへたをとり作った梅ジュースは「森のしずく」とネーミングし毎年好評です。新しくしたウッドデッキとテラスには、全居室から車いすでも出這入りできるためコロナ対応時、避難訓練時ともその機能を発揮いたしました。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年2月22日	評価機関 評価決定日	令和5年6月21日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

#### 【事業所の概要】

事業所は、横浜市内地下鉄グリーンライン川和町駅から徒歩10分ほどの、富士山が望める自然豊かな2000坪の広い敷地に、2階建ての2ユニットと平屋建ての1ユニットを有する計3ユニットの事業所で、特定非営利活動法人が運営している。  
広い庭の畑があった場所に四季を楽しめるイングリッシュガーデンを作り、利用者には、遊歩道での散歩や、広場での体操や日向ぼっこをしてもらい、筋力の低下や認知症の進行防止に努めている。

#### 【食事を楽しむことのできる支援の実施】

事業所では「美味しく食べる」ことを大切にして、3食とも職員が手作りしている。管理栄養士が、献立を作成し、野菜、肉などの食材を地元の商店に発注して、毎日配送してもらっている。事業所内で採れたふき、玉ねぎ、さつまいも、栗、柿なども食材として使用している。毎食、味噌汁、煮物の出汁は、日高昆布と宗田鰯節で取っている。職員によって味にバラつきがでないよう、管理栄養士がレシピを作成している。  
職員が利用者と同じものを食べることで、管理栄養士に、味付けや献立についての意見や、利用者の好みなどを伝えて、食事の質の向上に繋げている。  
また、出前の中華料理や、有名店の弁当を提供をしている他、利用者は、職員と一緒に食事レクリエーションで、パフェや、お好み焼き、おはぎ、さつまいもを蒸しケーキ、チョコレートケーキなどを作って楽しんでいる。

#### 【精緻な記録に基づくケアの実践と家族への情報提供】

事業所では、日々、利用者ごとの精緻な報告書（医療情報を含む介護記録）を作成している他、業務日誌、排泄・入浴・散歩チェック表や、職員間の連絡ノートなどにケアの内容などを細部にわたり、詳細に記録して、ケアの見直しなどに活かしている。出勤時には、前日の報告書や連絡ノートなどを確認して、質の高いケアの実践に繋げている。  
また、毎月、利用者ごとに日々の報告書1か月分と、生活の様子の写真などを家族に送付して、利用者の状況を伝えている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 都筑の丘
ユニット名	みずき棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム都筑の丘
ユニット名	やまぶき棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム都筑の丘
ユニット名	あじさい棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札の裏に5つの理念を明記しています。その中に「地域社会の一員として心豊かに生活を送れるように支援します」があります。毎月の会議や研修時に確認しています。	開設時に職員が話し合っって策定した5項目の事業所理念は、各ユニットの事務室への掲示や、職員の名札の裏に明記して周知している他、ワーカー会議（ユニットごとの会議）で確認している。職員は、5項目のうち「地域社会の一員として、心豊かな生活を送れるように支援する」「安心して、家庭的な生活を送れるように支援する」「五感を刺激し、個人の能力が発揮できるように支援する」の3項目を特に意識してケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナで人の集まる行事ができませんでした。地域のボランティアも畑と花壇以外の方はこられませんでした。満開の桜や、イングリッシュガーデンを地域の方が通りがかりにご覧になり「きれいですね。いつも楽しみにしています。」等の声をかけてくださいます。	法人の代表が持参する町内会の回覧板で地域の情報を得ている。庭での散歩時に、通行人と挨拶して交流している。近隣の小学校のコミュニティフェスタに職員と入居者で作った作品と事業所の花の写真を出展し、職員が参加して地域住民と交流した。畑作りなどのボランティアを受け入れている。従来取り組んでいた地域の夏祭り・盆踊り・避難訓練への参加や、中学生の職業体験の受け入れなどの地域交流は、コロナ禍のため中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近年さびれて行く地域の商店街への地域貢献として開設以来地域の商店を利用しています。米屋、肉屋、電気屋、食品全般。中華料理店からは年に数回出前を頼んでいます。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>通常は2か月に1度行っていますが今年度は中止の時もありましたが3月、6月、8月、12月は書面会議で行いました。</p>	<p>運営推進会議は、コロナ禍のため、文書で報告する書面開催として年4回開催した。会議報告は、会議メンバーの家族代表、地域包括センター職員、ボランティア代表、民生委員、近隣住民代表（地域の知見者）に送付している。会議報告には、利用者状況、主な活動・出来事、事故等の状況、今後の活動予定などを記載してメンバーに送付しているが、特段の意見や質問は寄せられていない。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>今年はありませんでしたが、コロナが終息したら以前のように入所者主催の認知症フォーラムや認知症サポーター養成講座の参加、認知症カフェ等のお手伝いをしたいです。</p>	<p>区の高齢・障害支援課には、運営推進会議の報告書を送付している他、利用者の要介護認定申請代行で区役所を訪問した際や、電話連絡の際に助言や指導を受けている。生活支援課とは、職員の来訪時や、電話連絡で生活保護受給者の状況に関する情報共有や相談をしている。従来、区主催の認知症フォーラムや認知症カフェの運営に協力していたが、コロナ禍で参加を見合わせている。職員が、行政の防災関連の研修に参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない」という前提のもとケアをしています。「これって身体拘束？」と思われる場面もあります。その事に気づくことが大事で月に1度のカンファレンス時に確認しています。	事業所は、身体拘束等適正化のための指針を定め、身体拘束排除マニュアルを整備し、身体的拘束適正化委員会を3か月に1回、身体拘束等の適正化のための研修を年2回以上実施している。委員会や研修では、県の虐待防止一斉点検の振り返りや、事例検討などを行っている。外出願望の強い利用者には、職員が付き添い、庭の散策やベンチで話を聞くなど気が紛れるような対応や、見守りを行っている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を3か月毎に全体会議時に行っています。入居者の痣や傷はすぐに画像を撮影し管理者に報告をして原因を究明しています。入居者の安全と人権を守る努力をしています。	事業所は、高齢者虐待防止マニュアルを整備して、虐待防止委員会を3か月に1回、高齢者虐待に関する研修を年2回以上開催している。職員は、研修で心理的虐待や介護放棄なども含めた高齢者虐待防止法等について学んでいる。不適切なケアについては、県の虐待防止点検の実施と振り返りを行っている他、研修のテーマとして取り上げ話し合っている。また、職員が、悩みなどを外部の社会保険労務士に相談できるようにしている。	高齢者虐待防止に関する指針・方針が明確になっていません。指針・方針を整備して、職員や利用者などに周知することが期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者の権利を尊重して守ることの大切さを身体拘束も含め研修しています。また職員も理解しています。成年後見制度は利用されている方からの事例として学ばせていただいています。		

9		<p>○契約に関する説明と納得          契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に相談員が利用者、及び代理人の権利（第10条）義務（第13条）契約解除（第14条）等をわかりやすく説明をしてご理解していただき同意を得て契約をしています。</p>		
10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>コロナ前のご家族からお話を伺う機会が多くありましたが今は少なくなりました。外部評価のご家族アンケートにはご意見を沢山いただき改善できるところは速やかに改善し反映させています。</p>	<p>家族の意見・要望は、従来、来訪時の他、お餅つきや、春の遠足、敬老会やクリスマス会などの行事の時などに聞いていたが、コロナ禍で実施できないため、電話連絡や、メールのやり取りなどで把握している。事業所では、毎月、日々の報告書（介護記録）1か月分と生活の様子の写真などを家族に送付して、意見を聞くきっかけとして活用している。また、昨年度の外部評価の家族アンケートの意見に書面で回答している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中で発生した問題点は速やかにその場で話し合い解決するようにしています。月に1度のサービス担当者会でケアプランの見直しや、職員からの要望、提案等を聞いて改善に繋げています。	職員の意見・提案は、管理者が、日々の会話や、月1回のワーカー会議、個人面談などで把握し、運営に反映している。個人面談は、年1回人事評価を兼ねて実施している。法人の代表者が、毎日のように来訪して、職員の意見などを聞いている。職員から、3食に使用している出汁の取り方に対する提案があり、管理栄養士が出汁の取り方のレシピを作成して、誰でも同じ品質の出汁が効率的に取れるように改善した。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、実績、貢献度などを公平に見極め職員が前向きに安心して働けるような環境を作ることを努力しています。介護職員処遇改善加算は年3回支給しています。	法人は、人事評価制度を採用して、職員の努力や成果を把握している。また、経験年数・役職と、スキル・受けるべき研修などを明示したキャリアパスを策定して、職員が自ら将来の姿を描ける仕組みを作っている。また、認知症介護実践者研修などの法人が推奨する研修の受講は、勤務扱いで、受講料、交通費は法人が負担している他、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得者に資格手当を支給するなど、就業環境の整備に努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修はコロナ禍で全体研修ができなくなり、毎月のサービス担当者会議時に行っています。外部研修も控えていますのでオンラインの研修に積極的に参加しています。希望者には参加できるようにしています。	事業所は研修年間計画を策定して、毎月、職業倫理・接遇、身体拘束・虐待防止、認知症、口腔ケア、感染症、メンタルヘルスなどのテーマの研修を実施している。また外部研修として認知症介護実践者研修などの受講を奨励するなど計画的な人材育成を行っている。外部研修を受講した職員は、研修報告を作成して会議でポイントを報告している。新入社員のOJTは事業所で指導担当者を決め、経験やスキルに応じた内容で実施している。	

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>横浜高齢者GH連絡会、神奈川県高齢者認知症GH協議会に加入していますがコロナ禍で交換研修もできませんでした。ブロック会議はオンラインでの参加で他事業所の様子がわかり参考になりました。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族に書いて頂いたアセスメントをもとにご本人から話を引き出しながら緊張や不安を取り除くようにしています。職員だけでなく他入居者も協力してくれます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご入居者に対しての思いや、ホームへのご希望等を遠慮なくいつでも相談していただけるようにしています。面会時や電話でしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	突然今までと異なる環境になり不安な気持ちを職員は理解し、GHの生活に慣れていただくことを短期目標にしてその方に必要な支援を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9人の入居者と職員が下宿屋さんのように生活することが理想です。それぞれの得意分野を職員が把握してご入居者と協働しています。人生の大先輩として教えていただくこともあります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで面会時間が15分となり外でマスク、フェイスシールドし距離をとりながらなので話しが噛み合わなかったり、面会に来られた方がわからなくなったりします。そんな時は職員がさりげなく間にはいり会話を繋いでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会ができない今は、手紙と電話でお話をされています。手紙が読めない時は代読し、電話で話しが通じない時もありますので職員がそばについてフォローしています。	入居時のアセスメント情報から、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握している。現在、友人や知人の訪問はないが、電話や手紙の取次ぎ支援は行っている。職員が、利用者の愛用している化粧品や目薬などの購入支援をしている。また家族からの依頼で、利用者の衣類の購入支援もしている。昔からの習慣で、事業所が購読している新聞を読んでいる利用者がいる。趣味の裁縫、塗り絵を継続している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	終日繰り返される帰宅願望や同じ話しの繰り返しにうんざりされながらも話を聞いてくれたり、洗濯物の畳み方を教えてくれ一緒に干しています。お互いの部屋に行ったり来たりし時には一緒にベッドに寝ていることもあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去をされるとご本人との関係性はなくなりますが、ご家族はボランティアとしてきてくださったり、ホームを紹介してくださったり、年末になると毎年カレンダーをもって来てくださる方もいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	帰宅願望、入浴拒否があっても当たり前なことと受け止めてご本人の気持ちを根気よく聴きます。入浴拒否が強く1週間以上入浴されない時はご家族に電話で入浴の声かけをしていただくと入られます。	入居前のアセスメントは、家族に利用者の過去の履歴などを記載してもらっている。また入居前の介護支援専門員にヒアリングも行っている。入居後は、日頃の会話や利用者間の会話の他、入浴時など1対1の時間を大切に、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者の思いや意向の把握は、家族からの情報や利用者の行動、表情から推測して支援に繋げている。把握した情報は、報告書に記録して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に幼少期から現在までの生活をご家族と一緒にアセスメントをします。職員との会話の中でご家族もしらなかったエピソードなどもあり報告すると喜ばれます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調、気分、天候等を視野に入れながら過ごして頂いています。嫌なことは強制はせず、好きなテレビや得意なお手伝いをされたり、居室で寝たりされています。		

26	13	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング        本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>コロナ禍で身体機能の衰えや認知症の進行などを感じた時はその都度対応方法を話しあいます。ご家族や往診医に相談することで介護計画の変更になることもあります。</p>	<p>介護計画は、アセスメントとモニタリングを基に、カンファレンスを行い、利用者・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。モニタリングは、管理者やホーム長（計画作成担当者）が、職員の意見も踏まえて行っている。介護計画は6か月ごとに見直しているが、状態により随時見直している。見直した介護計画は、コピーを回覧して周知している。また、報告書に介護計画の支援内容を記載して、計画とケアの連動を図っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映        日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子は毎月報告書と写真をご家族に送っています。職員は入社したらすぐに各ユニットの連絡ノート、業務日報、報告書に目を通し情報の共有をしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	川和町内会、川和地区福祉ネットワーク、地元の消防団、川和小学校、地域包括支援センターなど多くの協力を得て他機能化に取り組んでいますが、コロナ禍の現状はできていないところもあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道、絵手紙、音楽療法（らんらん会）社交ダンス、盆踊り等は今年もコロナでボランティアの方に来ていただけできませんでした。社交ダンスが好きな方が多いので早く復活したいです。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	さとう内科クリニックの訪問診療に際してはご家族に同意をいただいています。緊急時や薬の変更等はDrから直接ご家族に電話で説明をしていますので、ご家族も安心されています。	利用者全員が、24時間オンコール体制の協力医療機関（内科）をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している他、必要に応じて、協力医療機関から精神科や、皮膚科、整形外科などの訪問診療も受けている。歯科も利用者全員が協力医療機関と契約して、必要に応じて訪問診療を受診している。協力医療機関以外への通院は、原則家族が付き添っている。訪問診療や通院の受診情報は、報告書などに記載して職員間で情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さとう内科の往診の看護師さんから褥瘡の処置方法やコロナのガウンテクニック、ゾーニングなどその場で教えていただいています。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>緊急入院時には訪問医療のさとう内科から迅速に紹介状を送ってもらっています。受診時にはホーム長や管理者が家族と共に同行し退院に向けたカンファレンスに参加し早期退院を相談します。</p>		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GH都筑の丘の「重度化に関する指針」を基盤とし、ご家族、ご本人の思いを大切にしながら訪問医療のさとう内科と連携しながら終末期に向けたケアに取り組みたいと思います、	事業所は、入居時に「グループホームは生活を楽しむ場所で意欲的で楽しく暮らすことを目指し、積極的に看取りは行わない」という方針や、重度化対応に関する指針を説明して、同意を得ている。家族が看取りを希望する場合は、対応を検討することになっている。過去に看取りの実績がある。看取りを行う場合は、管理者、職員と家族、医療関係者が連携して支援することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で消防署の主催の訓練はできませんでしたが、日々の業務の中で、ご入居者の様子がいつもと違っていった時や、出血をした時の止血法などは事例を基に訓練をしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	認知症のため他所に避難することは困難です。広い敷地を利用してホームで避難することを考えています。コロナ禍で今はできていませんが、地域の消防団、近隣の住民の方達との消防訓練を行っていましたので協力体制はできています。	事業所は、10月に夜間の火災と地震を想定した避難訓練を実施した。また、2回目の避難訓練を3月に実施する予定である。水災のリスクが低いことを消防署に確認している。職員が行政のBCP（事業継続計画）に関する研修に参加して、計画の策定に取り組んでいる。近隣の住民の分も含めて事業所内と、近隣にある法人の倉庫に7日分の飲料水や食料を備えている。また毛布、テント、ブルーシート、リハビリパンツ、救急箱なども整備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「認知症」と言う病気であること職員は理解してご本人の人格を尊重しプライドや尊厳を大切にされた対応をしています。プライバシーの保持にも気をつけています。	職員は、研修で職業倫理、接遇について学んでいる。利用者の呼称は、名前に「さん」付けとしている。報告書の記載や、利用者に関する職員の会話は、各ユニットの事務所で行っている。管理者は、職員の会話や行動で、気になったことを都度指導している。パソコンは、パスワードで管理している他、ネットワークから切り離しセキュリティを強化している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや気持ちを表現できない方の思いをくみ取り「今どうしたいのかな」と考えて援助しています。散歩や、余暇支援の参加も声はかけますが自分で決めていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調気分を観察しながら一人一人のペースにあわせています。1日のスケジュールは決めず天気がよいと1日に午前、午後数回散歩に行くこともありますが行きたくない人は新聞を読んだりテレビを見たり居眠りをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べない方は職員がお手伝いしながら季節に合ったものを着て頂いています。体系や体の動き等が変わりご家族ではわからない時はサイズ好み、身体の動き等を熟知している職員がご家族に了解していただき購入しています。		

40	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援          食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食器洗い、食器拭き、盛り付けなどは特意の方が率先してくれ自然に役割分担ができています。人気のある献立は栄養士に話し回数を多くしたり、近所の中華1番からラーメンやチャーハンの出前をとったり、ハンバーグランチのテイクアウトをしたり、父の日は今半の「牛肉弁当」が大好評でした。敬老の日は恒例のなだ万の「寿の膳」を笑顔で召し上がりました。おいしく食べていただくことはなによりの支援だと思っています。</p>	<p>食事は、3食とも職員が手作りしている。管理栄養士が、献立を作成し、野菜、肉などの食材を地元の商店に発注して、毎日配送してもらっている。利用者は、調理の補助や、盛り付け、テーブル・食器拭きなどを手伝っている。利用者の状況に合わせて、刻み、トロミ、ミキサー食を提供している。クリスマスや正月などには、行事食を提供している。また、誕生日会では赤飯や購入したケーキを提供するなど、食事を楽しんでもらっている。</p>	
----	----	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専属の栄養士によるバランスの良い献立に季節の旬の物を取り入れるようしてもらっています。一人一人のご飯や水分の量、歯や嚥下の状態、減塩などを指導してもらいながら提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科衛生士による口腔衛生をしています。職員は口腔ケア時に立ち会っています。毎食後に歯磨きの声掛けと見守り、必要な介助をしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握しリハビリパンツを使用している方もトイレで排泄をしていただいています。ご本人には自立支援になりご家族には経費の負担が減ることにもなります。	支援を受けずにトイレで排泄できる利用者が各ユニットに3名程いる。他の利用者は、排泄チェック表で把握した排泄パターンに基づく定時誘導や、利用者の様子や仕草に基づく随時誘導を行いトイレでの排泄を支援している。夜間は、睡眠優先や定時誘導など、個人の特性に合わせた支援をしている。入居した当時、布パンツとパッドを利用していた利用者が、支援の結果、パッドが不要になった改善事例が2件ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	不穏の原因が便秘であることを職員は理解しています。1日2回以上の体操やストレッチ、便秘時には歩行や下腹部の運動やマッサージをしています。水分摂取が少ない方の対応等排便チェック表を基にかかりつけ医に相談しながら便秘薬の調整をしたり、時にはナースによる摘便をしてもらっています。		

45	20	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>1日おきの入浴ですが毎日入りたい方は時間を調整したり、希望の時間がある方はその時間に入浴していただいています。拒否の強い方は無理じいはせず声を掛ける職員を交替したり連携プレーで気持ちよく入浴していただいています。</p>	<p>入浴は、1日おきに週3回～4回、午後3時から5時半が原則であるが、利用者が希望する入浴時間や曜日に気持ち良く入浴できるよう支援している。入浴を好まない利用者には、無理強いせず、担当者や、日時、時間を変えて入浴を促している。体調の悪い利用者は、シャワー浴や足浴、清拭で対応している。利用者は、職員との会話や菖蒲湯、柚子湯を楽しんでいる。また同性介助にも対応するなど、入浴を楽しめるよう支援している。</p>	
----	----	---	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の余暇支援、お手伝い、体操や散歩で体を動かすことが夜間の良眠に繋がります。疲れたら居室で適度の昼寝をしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬管理表にそれぞれの薬の目的、量、時間を明記して、与薬時はそれを二人の職員が確認しあい与薬しています。薬の変更があった時は薬担当職員がユニットの職員に徹底周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者一人一人の得意な事、好きな事、好きな歌、好きな食べ物等を職員は把握し、テレビの番組は毎日チェックし録画をしたり映画等を楽しんでいただいています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でこの3年は外出を控えています。イングリッシュガーデン、遊歩道を作り散歩や体操、気分転換をしています。季節の畑の収穫は皆さんとても楽しみにされています。	天気の良い日には車椅子の利用者も一緒に、事業所のイングリッシュガーデンや遊歩道を散歩している。また、備え付けのベンチで花見や日光浴、外気浴を楽しむ利用者もいる。川和町駅周辺の菜の花の見学にドライブで出かけ、車中から景観を楽しんだ。利用者の外出歴を散歩チェック表で把握して、利用者の状況に応じ、外出頻度に偏りがないようにしている。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>認知症であることによる盗られ妄想等の金銭トラブルの出現があるので金銭はお預かりしていません。ご入居者にはご家族が預かっている事をその都度お話ししています。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという時は、あらかじめご家族の了解を頂いた上で折り返し電話をしています。手紙をご自分で書けなくなった方には、代読、代筆をすることもあります。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓を開放し自然の風をとりこんでいます。窓が大きく明るすぎる時はほどよい明るさにしています。CDの音楽も季節や好みで選曲しています。各ユニットの廊下には葉祥明さん等の穏やかな気持ちになる絵をかけています。	リビングは、大きな窓があり、採光もよく明るい。レースのカーテンと遮光カーテンで明るさを調整している。車椅子の動線も確保されている。台所は、対面式で利用者の様子を見守りながら調理ができる。温度・湿度管理は、エアコン、加湿器やサーキュレーターで行っている。また、日中は、常時、窓の一部を開けて換気を行っている。壁には、利用者と職員が作った月替わりの季節の飾り物や、行事の写真などを飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが2つ顔が向きあわないように置いてあります。玄関や廊下にもベンチが置いてあり、おしゃべりをしながら日なたぼっこをしたり、1人静かに本を読まれる方もいます。		

54	23	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みのある箆笥、鏡台、椅子や好みのカーテンなどご家族が工夫されてお持ちになります。認知症の進行により危険と判断した時はご家族にお話しをして持ち帰りをしていただいています。</p>	<p>居室は、エアコン、クローゼット、照明器具、レースのカーテンが備え付けられている。タンス、鏡台、テレビ、仏壇、ぬいぐるみ、家族の写真などの馴染みの品や思い出の品が持ち込まれ、個性豊かな居室になっている。居室担当者が、衣替えや備品の管理を行っている。安全対策として、家族に同意を得て、離床センサーを使用している利用者もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下とリビング、ダイニングは対面式キッチンから見守りができるようになっています。洗濯物を干す畳む、食器拭き等のお手伝いは職員が見守り声を掛けながらして頂いています。</p>		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 都筑の丘

作成日 令和5年6月27 日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	高齢者虐待防止に関する指針、方針が明確になっていません。指針・方針を整備して、職員や利用者などに周知することが期待されます。	高齢者虐待防止に関する指針、方針を明確にしたマニュアルを作りました。。	身体拘束の適正化のための指針の中に高齢者虐待の指針も入れていましたが明確でないと評価時に指摘されましたので方針を明確にした「高齢者虐待防止に関する指針」を作成いたしました。	職員への研修、周知期間として3か月を予定しながら行っています。
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。